

教育目標		心豊かでいきいきと生活する子ども						
重点目標		1 一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。		2 友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。				
重点項目		3 健やかな心と体づくりを進める。		4 家庭・地域社会との連携を図り、地域に関わられた幼稚園づくりに取り組む。				
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上 + A5: H13	自ら学び自ら考える力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で考え決定し、主体的に遊び込む力を育成する。</li> <li>・全職員で子供の姿について共通理解を図るとともに、子供が自ら考え遊び込むに必要な環境構成の工夫を行い、保育を実施する。</li> <li>・自分で考え決定し主体的に遊び込む姿に繋がるための環境の構成について園内研究会を年3回行い、職員全体で学び合い、教職員の保育実践力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月1回短時間指導計画及び月外の環境構成について協議し、子供と保護者との話し合いで共通理解を図る。</li> <li>・月1回遊びの環境について環境構成図を作成し、子供が遊び込むために必要な環境を整えると共に、実際の子供の姿から環境を再構成する。</li> <li>・子供が考え決定し主体的に遊び込む姿のエピソード記録をもとに、学期に1回以上、カンファレンスを行う。</li> <li>・保護者アンケートの「子供は幼稚園で自分の好きな遊びを楽しんでいる」という評価項目の肯定的な評価を80%以上にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回遊びの環境の作成及び作成方法の見直しと共に、月2回の短時間指導計画の話し合いの際に、子供の姿の共通理解を図ってきた。また、実際の子供の姿から、環境の再構成を行い、子供が主体的に遊び込む環境づくりに繋がる。引き続き、子供の姿や興味関心に基づき環境の構成を行っている必要がある。</li> <li>・学期に1回以上、エピソード記録を基にカンファレンスを行った。今後はエピソード記録の活用を更に進め、子供と保護者の共通理解について必要がある。</li> <li>・保護者アンケートで、肯定的な評価を80パーセント以上とすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が自ら考え決定し、主体的に遊び込む力を育むために、今後も子供の興味関心に基づき環境の構成を行っていく。また、子供の姿について職員間で意見交換を行い、共通理解を図りながら進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが自ら考え主体的に遊び込む姿をめざし、指導計画、エピソード記録等をもとに職員が前向きに取り組む姿が見られる。改善策の具体的な回数の表記がある。</li> </ul>	
	直接体験を通して子どもが心動かす保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が感じ考え学びを深める事ができる教育課程を編成する。</li> <li>・園の特色でもあるピオトープなどの園庭の自然物を取り入れた保育を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期ごとに教育課程の見直しを行い自園の子供の実態に即した教育課程を編成する。</li> <li>・月1回ピオトープ研修会を実施し、生き物や自然に触れる直接体験の機会を作る。また、研修内容を異年齢児に伝えたり遊びの環境を作ったりする。</li> <li>・生き物や自然を身近に感じることができるように、季節に応じてクラスの保育室や園庭の環境を構成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回、教育課程の見直しを行う。年長児のピオトープ研修会を月1回実施する。活動内容を、年2回異年齢児にフィードバックする。</li> <li>・保護者アンケートの「ピオトープ研修会等の園庭の自然物に触れる機会を確保し、以前より自然環境に興味を示すようになった」という肯定的な評価を80%以上にする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回の教育課程の見直しを行うことができた。</li> <li>・アンケートで80%以上の肯定的な評価を得ることができた。</li> <li>・異年齢児年2回、ピオトープについて学んだことを伝えることができた。また、活動内容を提示し、異年齢児が見たり触れたりすることができている環境を作った。しかし、より異年齢児を巻き込んだピオトープ研修にしていた工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度までの市内統一の教育課程の完全実施に向けて、次年度用いる教育課程の検討をし、さらに教育課程を身近なものにしていく。</li> <li>・日々保育実践に努めている。</li> <li>・今後は生き物がより身近に感じられるような園庭の自然環境を職員で共通理解しながら作っていく。</li> <li>・異年齢児ももっとピオトープについて知らせたり、知ることでできるような環境を準備していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近に自然を体験し興味を持って積極的に観察したり考えたりする環境を定期的に活かす機会を作っていく。</li> <li>・生き物が少ないのでピオトープだけに限らず、意図的に自然を残せたい。自然体験は担任の意識が子ども達の興味関心につながる。</li> </ul>
	子どもの健やかな体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の遊びの中で楽しく運動遊びに取り組む。</li> <li>・園と家庭が連携を取りながら、基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しんで体を動かすことができるよう、日々の遊びの中で運動遊びや律動などに取り組む。</li> <li>・ほげんたよりほげんの話、けんこうカラダなどを通して、基本的な生活習慣について啓発し、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びの評価、保健活動の評価において肯定的な評価を80%以上にする。</li> <li>・毎月ほげんたよりを配給し、保護者啓発を行う。</li> <li>・ほげんの話を月1回行った後、継続した指導を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊び、保健活動ともにアンケートで肯定的な評価を80%以上とすることができた。</li> <li>・ほげんたよりを毎月配給することができた。</li> <li>・ほげんの話を月1回行うことができた。ほげんたよりを毎月配給し、保護者自身で意識して生活する姿が見られる。その時期だけ意識するのではなく、継続して取り組んでいけるようにすることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場限りの指導より声かけを行ったり、家庭と連携したりしながら、基本的な生活習慣の確立をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の確立は、小学校入学後も課題である。特に決まった時間に寝ると、連携して家庭と子どもにも意識してもらおうと粘り強く取り組む必要がある。</li> </ul>
	豊かな心・健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めたい。</li> <li>・組織的、計画的なインクルージョン教育の充実・保育の充実・努める。</li> <li>・必要に応じて教育相談や学校コンサルテーションを利用したり、療育施設との情報交換を行う。外部機関との連携を図る。</li> <li>・自尊感情や他者を思いやる気持ちを育む保育を実施する。</li> <li>・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別な支援を必要とする幼児の情報交換を細やかにし、職員間で共通理解を図り連携して支援を行う。</li> <li>・担任と担当で連携して個別指導計画を作成し、個に応じた支援を実施する。</li> <li>・必要に応じて教育相談や学校コンサルテーションを利用したり、療育施設との情報交換を行う。外部機関との連携を図る。</li> <li>・日々の保育の中で、自尊感情が高まるように、一人一人に十分に認め、自分も他者も大切にできるように子供達の気持ちや考え、行動等を尊重した保育を実施する。</li> <li>・飼育物や畑の作物の栽培を通して生命の大切さに気づき、愛情深く関わる経験ができるよう保育を進める。</li> <li>・人権意識が高まるように保護者と職員が研修を通して学ぶ機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回に1回の保育会議を行い、子供の姿や課題について全職員で共通理解を図る。</li> <li>・年2回、個別指導計画の作成を行い子供の育ちを保護者と共有する。</li> <li>・利用している療育施設と連絡を取り合い、情報交換を年1回は行う。</li> <li>・保護者アンケートの「子供は自分と大切にできる気持ち(自尊感情)や他者を大切にできる気持ちを学んでいる」という評価項目の肯定的な評価を70%以上とする。</li> <li>・自尊感情の育成について、保育の中で工夫していることの情報交換を積極的に行う。</li> <li>・人権に対する園内研修、保護者研修を年1回以上行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて随時、特別支援対象児の記録を元に担当で会議もつたり、隔週で全職員で職員会議ももち、個々の育ちや課題、必要な支援について共通理解をはかりながらインクルージョン教育に取り組むことができた。</li> <li>・年2回特別支援対象児の保護者に個別指導計画の提示、個人懇談会を実施した。また、個々の状況に応じてその都度保護者と話し合う場を設定し共通理解を図りながら環境に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、特別支援対象児が多数在籍しているため、課題も多様化している。園で、職員間での共通理解、連携を密にし、インクルージョン教育に取り組んでいく。</li> <li>・保護者との連携も丁寧におこない、必要に応じて関係機関との連携も密に図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの発達や特性に合わせて丁寧な育ちをサポートしていると思う。対象児が多いので共通理解を図る大変な時間の確保で職員も負担が大きい。今後も必要であれば今後工夫が必要ではないかと思う。</li> </ul>
教師の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い教育活動が行えるよう個々の教師の力を育成する。</li> <li>・教職員研修の充実・人材の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児理解を基盤とした保育のあり方や環境構成について話し合ったり園内研修、共同研究を進めたい。</li> <li>・他園の研究に学び、主体的に遊び込む子供(自分で考え決定して行動する)子供を育てる保育について学ぶ。</li> <li>・教師をそれぞれが自己目標を設定し、園の課題に向けて研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上に努める。</li> <li>・幼児理解を基盤とした保育のあり方や環境構成について話し合ったり園内研修、共同研究を進めたい。</li> <li>・他園の研究に学び、主体的に遊び込む子供(自分で考え決定して行動する)子供を育てる保育について学ぶ。</li> <li>・教師をそれぞれが自己目標を設定し、園の課題に向けて研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマに沿ったエピソード研修を月1回実施し幼児理解に基づいた話し合いを行い、共通理解を図る。</li> <li>・園内研究会を年3回、共同研究園との研修会を年間2回以上実施し「自分で考え決定して行動するための環境の構成」についての学びを深める。</li> <li>・個々の職員の課題や目標に応じた幼児教育センター主催の研修会や幼児教育の専門性を高めることができる研修に参加し、得た学びを職員会議で共有する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード研修を月1回実施し、子供の内面や心の動きを深く、子供の姿を大切に理解し、保育実践に努めた。</li> <li>・園内研究会を年3回、共同研究園との研修会を年間2回、互いの園の研究会へ参加し、自ら考え決定して行動するための環境の構成について、学び合うことができた。</li> <li>・また、市内研究会を実施し、子供理解や環境の構成について学ぶことができた。個々の資質向上を図るため、共同研究園としての学びを整理し、全職員が共通理解し共有できるようにしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エピソード研修を通して、個々の職員がカンファレンスで学んだことを話し、保育力の向上に努めている。</li> <li>・講師を招いた園内研究会を年3回、園内の研修会を学期に1回実施し、互いの園の研修会を見直し、保育の質の向上に努める。</li> <li>・共同研究園との研修会を年2回以上実施し、学び合う体制をいかにし、子供理解に基づく、質の高い教育活動が行えるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の教師の教育力向上に積極的に取り組んでいると思うが、引き続きモチベーションを高く研鑽に励まされることを期待する。</li> </ul>	
開かれた・信頼される園づくり	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策に努め、安心安全な幼稚園生活が過ごせるよう努める。</li> <li>・危機管理体制の整備を進める。</li> <li>・安全指導を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症などの状況把握を行い、関係機関と連携を取りながら、感染症などへの対応、感染対策を行う。</li> <li>・避難訓練や火事対策、交通マナーなどの指導を定期的に行う。</li> <li>・園舎内や園庭、遊具等危険箇所がない点検し、危険箇所の修繕や撤去等を適宜行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に関する項目の肯定的な評価を80%以上にする。</li> <li>・日々感染対策を行うとともに、感染症などの状況把握及び必要に応じた情報提供を行う。</li> <li>・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回行う。</li> <li>・月1回安全点検を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートでは肯定的な評価を80%以上とすることができた。</li> <li>・感染症などの状況把握に努め、教師間で情報共有し、必要に応じた情報提供を行うことができた。</li> <li>・避難訓練、防災訓練後に振り返りを行うことで、課題や成果が明確になった。</li> <li>・月1回の安全点検や日常での気づきなどを通し、その都度安全に過ごせるよう関係機関と連携を図ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き感染症などの動向を把握し、感染症対策を行っていく。</li> <li>・避難訓練での課題や成果をもとに教師の人的配置や役割分担を共通理解し、全職員が責任をもって行動できるようにする。</li> <li>・安全に生活できるよう今後も安全点検及び修繕や撤去等を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が安心して園内で遊び込むために今後も月1回程度の安全点検と共に日常、不審者対応も含めてリスクに気づく姿勢を徹底して行っていく。</li> </ul>
	学校園情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙面やホームページ等を通して現在の様子を発信する。</li> <li>・クラスだよりを月1回発行したり、ホームページを月3回以上更新したり、Googleの動画を月3回以上アップすることで、園教育の可視化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回保育参観等、保育の公開を行う。園だより、クラスだより等を月1回発行、ホームページ、Googleによる動画配信を月3回以上更新する。</li> <li>・保護者アンケートの情報発信に関する項目の肯定的な評価を80パーセント以上にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやGoogleの動画配信を月3回以上更新したり、クラスだよりを紙面だけでなく伝えたい内容に応じてGoogleで随時配信したりなどタイムリーに情報発信をおこなうことができた。</li> <li>・保護者評価の肯定的な評価を80パーセント以上とすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も便りやホームページ、ドキュメンテーション、動画配信などを活用し、子供の様子や教育活動の理解、協力が得られるように取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的にわかりやすく親しみやすい情報発信に努めていると思う。</li> </ul>
	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の充実を図り、子育て支援に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「預かり保育」利用者増加に伴い、より安全管理に努め、子供が安心安全に過ごせるよう環境や活動内容を工夫する。</li> <li>・子供の様子や健康状態等職員間の連携を図るとともに、保護者との連携も図り、子育て支援の充実を図る。</li> <li>・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を実施し、支援員と連携を図り来就園児・保護者の様子等について職員間で情報を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が安心して子育てができる」と言う項目の評価を80%以上とする。</li> <li>・園生活での子供の様子や、保護者から得た情報などを担任と預かり担当で共有する場を隔週1回もつ。</li> <li>・子育て支援センター主催の「みんなのひろば」を年間9回実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「預かり保育」の利用者が増え、保護者のニーズに応えるよう努めたことで、80%以上の評価を得ることができた。子育て支援の充実につながっていると考え。</li> <li>・子育て支援センターのみんなのひろばは、年間9回実施することができた。毎回定員を上回る参加者があり、来就園児との自然な交流を図ることができ、保護者が安心して子供と過ごせる場となっていた。また、保護者が入園前に幼稚園の様子を知った園の教育について話を聞いていくことができる機会も増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の利用者が増えることで、子供の安全確保、保護者対応、事務作業の増加などの状況を共通理解し、引き続き全職員での協力体制を図る。</li> <li>・就園前に園の様子や教育について知りたい来就園児の保護者の要望に対応できるように、引き続き「みんなのひろば」の職員との連携を図りながら子供の様子を把握していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の充実と積極的に取り組まれていると思う。ただ、職員の業務が増大している事を危惧している。</li> </ul>
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前月に見過ごしを持ち、月ごとの業務日録を立て、全職員で点検し、職員会議や作業等を行う。</li> <li>・計画に無理がある場合には、適時修正を行い業務遂行に支障が無いようにする。</li> <li>・園務担当者が予め資料を配付したり意見を集約することで会議時間の短縮や定時退勤日やマイ定時退勤日を設定することにより超過勤務削減についての意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画した業務日録に沿って業務を行い急な変更や支障が無いようにする。</li> <li>・環境整備は日頃より気づいたところを全職員で行い効率よく業務を遂行できるようにする。</li> <li>・事前に会議内容を共通理解することで会議時間の短縮を行う。</li> <li>・月1回の定時退勤日およびマイ定時退勤日を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議については、事前に資料を配付し、会議内容を確認することで会議時間の短縮が図れた。</li> <li>・「研究にかかわる会議については他園との調整などもあり、自園のペースを進めることが出来た。予定以上の会議や仕事が増えた。</li> <li>・マイ定時退勤日を設けることで、職員一人一人が勤務時間削減について意識出来るようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園務日録はどの都度見直しが必要になるので、余裕を持って細く共通認識していく。</li> <li>・計画を減らし、パソコン活用を増やしたり、書面に慣れていくことで、日作業量が多くなる。</li> <li>・定時退勤日やマイ定時退勤日以外も常に意識する事と年次体系的な取得促進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達のために大変お忙しい中で業務改善を進められていると思う。書面の方がデジタルよりも見やすいと思うが、会議内容は事前にデータで見られるように準備している。日作業量が多くなるので、今後も業務改善を小さなことでも出来る事から取り組む事が重要だと思う。</li> </ul>	

学校関係者評価総括  
心豊かでいきいきと生活する子どもの育成にきめ細やかに計画的に取り組んでいる。

次年度に向けた重点的な改善点  
さらに幼小中の連携や業務改善を進めていけたら良いと思う